

## 主任教授からのメッセージ

泌尿器科にも、この20年でずいぶん女性泌尿器科医が増えてきました。昨年の専門医試験の受験者で見ると、20%が女性医師になっています。泌尿器科は男性、女性の尿路生殖器・後腹膜臓器という非常に広い範囲の疾患を対象としていますが、男性生殖器が含まれるため、女性にとっては専攻しにくい科の一つと考えられていたかもしれません。

しかし医学的には、泌尿器内科、泌尿器外科を包括し、非常に広範囲の分野から自分に適した専門性を身につけることができます。さらに緊急疾患・緊急手術の頻度が少ないという意味で、外科系を目指す女性医師にとっては、取り組みやすい科だと思います。

外科系に興味がある女性医師の皆さん、ぜひ、どんな科なのか、中身を見に来てください。

## ○ 診療科の特徴

腎、副腎、尿路、生殖器、後腹膜・骨盤の疾患が対象です。泌尿生殖器・後腹膜・骨盤の腫瘍（悪性、良性腫瘍）、排尿障害、感染症、結石症、移植、泌尿器内分泌（副腎）、不妊、性機能、女性泌尿器（女性特有の泌尿生殖器疾患）、小児泌尿器疾患など非常に広い分野に対して診療を行います。

個々の医師の適性（社会的環境）なども加味して、多くの分野から自分に合った専門性を選択できるのが特徴です。

該当疾患に対する治療も、内科的治療（薬物療法）、放射線療法、小規模の手術（経尿道的内視鏡手術など）から大規模な手術（腹腔鏡手術、ロボット手術、開腹手術）まで、多岐にわたります。外科的治療ひとつとってみても、女性一人でも可能な手術が多くあります。

泌尿器科は内科・外科に分かれていないため、最適な治療方針を一つの科で決めることができます。このような独立性は、個々の医師が最善を追求する点で、大きなアドバンテージになります。

## ○ 診療科で働く女性医師

現在、附属病院に1人、総合医療センターに2人の医師が在籍しています。2人は泌尿器科専門医を目指して、知識技術を身につけるよう、指導体制を強化しています。1人はご自身の専門性を確立され、様々な学会で活躍中です。

このように、泌尿器科は女性も活躍できる場を提供していきます。



## 職場復帰への取り組みについて

## ○ 復帰までの道のり

個々の先生方の復帰については、先生方の休職前のキャリア、休職期間、希望する将来像などによって大きく異なりますので、まず、先生方が希望する復帰形態、復帰のタイミングを十分にヒアリングして、無理なく復帰できるような枠組みを作っていきます。例えば、最初は、外来診療のみでの復帰を希望される場合には、その外来をサポートできるような曜日に外来をしていただきます。入院、手術含めてフルタイムで復帰される場合には、当科は、2～3人のチームで患者さんを受け持ちますので、3人チームに入っただき、徐々に業務に慣れることができるよう、配慮しています。

## ○ 研修内容

特に、入院患者さんの診療については、チーム制で行うため、すべてが個人の負担にはなりません。先に述べたように、3人のチームに入り、チームとして医療に携わりますので、常に上級医師とディスカッションして知識を得ることができますし、時間的に最後まで参加できない手術であっても、チームでカバーすることが可能であり、執刀医師として臨床経験を積むことができます。また、月曜日、木曜日に臨床症例カンファランス、火曜日に抄読会や研究支援カンファランスを行っていますので、これらの場で知識を得ることもできますし、担当患者の治療方針などを全医師と議論できる体制を確立しています。

## ○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

日本泌尿器科学会における女性会員の割合は2020年には7.8%とまだまだ全体に占める割合は少なく見えますが、2020年の新規入会者数に限れば20%、5人に1人が女性です。当科では、小切開で行う陰嚢や尿失禁の手術のほかマイクロサージャリー、経尿道的な腫瘍切除術や結石に対する碎石術、開腹手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術など多彩な手術を行っています。このため、妊娠中、産後でも体調をみながら手術に参加することができ、キャリアを継続しやすいと思います。それぞれ家庭環境が異なれば、出てくる悩みも異なります。妊娠中、産後の働き方については一律に決めるのではなく、個々人の状況に応じた対応を考えていきます。当科では男女問わず、相談しやすい雰囲気がありますので、いつでも相談してください。

### 復歸した医師の声

#### 体験談（A先生）

私は2年前に出産し、新年度が始まる時に息子が生後8か月で復職しました。附属病院で復歸したのですが、保育園に通いはじめのころは熱を出すことが多く、家の近くの病児保育や院内の病児保育を利用することもありました。院内に預けられることは安心感がありました。

腎泌尿器外科はまだ女性医師は少ないですが、先輩の先生方は子育てと家事、仕事を両立されています。不安はあり



ましたが、いろいろ相談に乗っていただき復歸後からフルタイムで勤務しています。現在総合医療センターで勤務しておりますが、周りの先生方の理解、サポートもありフルタイム勤務が続けられています。忙しい毎日ですがとても充実しており日々勉強させていただいています。腎泌尿器外科というと女性医師が少ないというイメージがありますが、後輩の女性医師も増えてきており男性の先生方もとても優しい先生ばかりです。また手術も種類が多く手技もあり、もともと外科系を考えていたのですが入局して良かったと思います。

#### 体験談（B先生）

私は、卒後6年目(入局4年目)に長女を妊娠、出産し、2年後に長男を出産しました。産後は半年の産休育休をいただき、短時間勤務を経て、フルタイムに戻り、その後大学院に進学、現在またフルタイムで臨床に戻っています(写真は私のチームのメンバー)。現在、長女は11歳、長男は9歳になりました。子供が小学校に入ってから、それまでとは別の育児の大変さがありますが、以前に比べると少し余裕が出てきたように思います。現在、当医局には私を含め女性医師が3名いますが、2021年4月にはさらに1名増えて4名になります。チーム制をとっているため、誰かが急に休んでも柔軟に対応できるようになっており、男女問わず働きやすい環境だと思います。一緒に働く仲間が増えるのを楽しみにしています。当医局に入局される方でも、女性医師としての働き方、育児などについて相談に乗りますのでどうぞ気軽に声をかけてください。

